

浜坂病院 久しぶりの耳鼻咽喉科受診

先の12月議会中の答弁を聞き間違えたことから、久しぶりに耳鼻咽喉科を受診することにしました。午後に受診をしようとは何か確認する電話をさせていただいたところ、残念ながら集団検診が予定されているとのことで、断念して金曜日の午前中に受診させていただきました。自力での上手な掃除ができにくい耳をしているため、難聴状態に陥ることがありました。

前回の受診から相当経っていましたが、いい切っ掛けになりました。聴力検査も受け、年相応の機能ですとのことで複雑な気持ちですが、この科を維持していただいている兵庫医大には感謝です。

幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保方策

■認定区分と提供施設

	認 定 区 分	提 供 施 設
1号認定	3～5歳、幼児期の学校教育のみ	幼稚園、認定こども園
2号認定	3～5歳、保育の必要性あり	保育所、認定こども園
3号認定	0～2歳、保育の必要性あり	保育所、認定こども園、特定地域型保育事業所

□1号認定・2号認定（単位：人）

	令和2年度（2020年度）			令和5年度（2023年度）			令和6年度（2024年度）		
	1号	2号		1号	2号		1号	2号	
		幼稚園	保育所		幼稚園	保育所		幼稚園	保育所
①量の見込み	27	0	219	28	0	194	25	0	183
②確保の内容	認定こども園	27	0	219	28	0	194	25	183
②-①	0	0	0	0	0	0	0	0	0

□3号認定（単位：人）

	令和2年度(2020)		令和5年度(2023)		令和6年度(2024)	
	3号		3号		3号	
	1-2歳	0歳	1-2歳	0歳	1-2歳	0歳
①量の見込み	99	8	98	10	96	12
②確保の内容	認定こども園	99	8	98	10	12
	(特)保育事業所	0	0	0	0	0
②-①	0	0	0	0	0	0
【参考】保育利用率(%)	67	12	71	16	72	20

※保育利用率は0歳もしくは1-2歳の子どもの数に占める利用児童数の割合

むだばなし

私の住む集落では、1月7日に「とんど」をします。正月のしめ縄や前年のお札などを燃やします。以前は1月15日でしたが、私が27歳で帰郷した時には、正月気分から早く脱却するためか既に変更されていました。小さい頃は、夜明け前から親に連れられて参加していました。一斉に始める訳でもありませんでしたが、それなりに人が絶えることなく賑やかな行事だった記憶があります。火の中にしめ縄などをくべた後、神社にお参りをしました。とんど場では炎が上り竹の葉がパチパチと音を立てて燃え上がりました。割った竹に餅を挟んで焼いたりもしました。帰りには黒く焦げたしめ縄の端切れを缶に入れて持ち帰りましたが、厄除けだとか言っていたように思います。

今年は、私の隣保がとんど場づくりの当番になっていたため、つくったとんど場の活躍を見たいと朝早く参加することにしました。こんなさりげない行事がいつまでも続いて欲しいと思います。



利用見込から分かること

令和6年の利用見込み児童の総数は25 + 183 + 96 + 12 = 316名であることが分かります。

町内各認定こども園の定員は、
・浜坂認定こども園：120名
・大庭認定こども園：90名
・明星認定こども園：60名
・ゆめっこ認定こども園：130名
以上のとおりですが、大庭認定こども園の定員を除く定員の合計は、310名になります。

また、この度の感染症の影響もあり、昨年度の出生者は54名で想定を超えた減少傾向です。

更に大きな問題は、新生児の内3名が誕生日を待たず本町の住民ではなくなっていることです。

浜坂認定こども園に0歳児受入れ定員が上乗せされれば、大庭を除く定員で足りる計算になります。

どうなる？巨大風力発電プロジェクト



本町熊谷地区を中心に計画されている風力発電事業についての新たな情報は得られませんでした。



小春日和だった12月11日、愛犬のテンテンと散歩をしていると越冬中の「アカタテハ」がゆったりと散策しているのに出会いました。悩みの多い議会会期中でもあり、季節外れの遭遇に心がなごみました。

町政報告 2022年初春第17号

柝の実通信

（ただちゃん つうしん）



新温泉町議会議員

かわごえ

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土978-1 TEL0796-92-2428 FAX92-2206

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp <https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1>

迎春



少しご機嫌の良くなかった元旦の浜坂海岸

令和4年幕開け

昨年の秋以降落ち着いていた感染症も新型株の発生により、今までにない速さで第6波が拡大しつつあります。3回目のワクチン接種も対応が間に合いそうになく、政府の危機管理責任が問われるところ です。

本町においては、11月に西村町政2期目がスタートしましたが、我が町の課題は山積しており、特に少子化対策には万全を期すことが求められています。

今年こそ、浜坂認定こども園の現在地を活用した早期整備をと望んでいるものの先の12月議会での答弁から懸念が深まっていました。先日の総合教育会議で方針が表明されましたが、防災及び就労支援保育などの課題は残されたままです。

＜浜坂認定こども園整備における課題＞

孤立する危険性に対する心配はありませんか？

味原川が改修整備された後の平成29年に現在の浜坂認定こども園の隣接道路・ほ場が冠水しました。それ以前には、怖い経験や大変不安な経験をされた職員さんも少なくないはずです。

第二期整備検討委員会で、そんな心配に対する対応策は検討されなかったのかと不思議に思っていました。しかし、平成30年11月26日の委員会の見逃していた議事録の記載から理解できました。そこには、アドバイザーから「（孤立する）怖い思いも大切な経験だろうと思います。」（後掲）と記載されていました。そこで、**孤立を心配する意見は封じられた**んだと感じました。

現在地の東側が北側に変更提案されても、防災対策に変更がなければ、**大雨洪水警報が発表されると即座に休園になります。**

仕事を休ませる「保育サービス」でいいんですか？

改築は別の場所での統合議論の排除を意味する？

財政力に乏しい我が町が、浜坂認定こども園整備の後、大庭認定こども園を整備し、その後そう遠くない時期に統合しようとしても、新たな場所に整備することは不可能だと思います。即ち、**今、浜坂認定こども園整備に巨額の投資をすることは、浜坂認定こども園が必然的に統合こども園になることをご理解ください。**

浜坂地域認定こども園整備の課題

H30.11.26 整備検討委員会議事録（抜粋１）

（略）（洪水の危険が高まった場合の対応について）

【こども教育課】（概要）鳥取市の場合、これまで氾濫の心配があまりなかったことで、各園で対応していたが、今年危険な状況があったことで、市として統一した対応を検討しているとのこと。市の統一対応で保護者の理解が得られやすくなるであろうとのこと。一方で**保育の必要性との兼ね合いで保護者との調整が必要**であるとも言われていました。

【委員長】（前段略）現状はどうなんですか。

【委員：園職員】（警報発表時）ほとんどは自宅で待機してくださっています。保護者の迎えが難しい場合に祖父母や友人の保護者が連れて帰るようなケースもあります。**保護者の仕事の関係で預かる園児もいます。**多いときで20人、その中でも3～4人が遅くまで残っていたケースもありました。

保育は、生活基盤と社会生活を守るためのもの

H30.11.26 整備検討委員会議事録（抜粋２）

（略）（洪水の際、孤立する危険があることについて）

【委員】周辺の道路が冠水したことはあったのでしょうか。

【委員：園職員】（概要）（冠水した跡があったことがある。）

【こども教育課】（概要）（この地域は比較的早く水が引くようだ。）（中略）

【委員】陸の孤島になる時間はあまり長くないという説明がありましたが、**少しの時間でも陸の孤島になれば保護者は凄く不安を感じると思います。**孤立する可能性はほとんどないとは思いますが、保護者の理解を得るのは難しいのではないのでしょうか。

【アドバイザー】（前段略）森の幼稚園がなぜ受けるのかという体験なんです。（中略）擦り傷程度のケガまで守るのかとなると、それも体験なんだろうと思います。**怖い思いも大切な体験だろうと思います。**避難についてはソフトの部分も大きい。先生が怖ければ園児も不安になる。その部分はプロにお任せするところではないのでしょうか。建物を建てるときに全ての不安を払拭することは不可能に近いので、その部分は保護者とのコミュニケーションで対応する。前提として最低限命は守れる施設にすることは必要だとは思いますが。

安全性と保育維持機能を備える必要があるはず



河越 の 懸念（１）

浜坂認定こども園は現在地周辺の土地を求めて、規模を拡大して改築するよう検討されています（予算規模10億円超、内補助金1億円）。大庭認定こども園との統合はしないと表明されながらも、巨額の予算を投じて整備することになります。12月議会の一般質問では「大庭認定こども園整備は浜坂認定こども園整備に一定の目途がついた後で検討する。」との答弁でした。

見通しが示されないまま、統合をしない施設に大きな投資をすることが適切な。

河越 の 懸念（２）

浜坂認定こども園（昭和53年竣工）は津波被害の危険性があるとの前提で、大庭認定こども園（昭和49年竣工）より早く移転改築整備が検討されてきたところですが、その後に津波の危険性が低いとの見解に変更され、整備位置が現在地周辺との意向が示されましたが、耐震改修が可能であり、改築する必然性はなくなったと思います。

河越 の 懸念（３）

人口減少が加速している我が町の財政力は乏しく、**過疎・少子化対策等も不十分**です。

また、保有公共施設も他の自治体の平均より、約4割多いと言われています。つまり、今回の認定こども園整備も総合的な財政支出を見通して実施されるべきではないかと考えています。

H30.11.26 整備検討委員会議事録（抜粋３）

（略）（浜坂と大庭のこども園統合について）

【委員】2園存続の説明がありましたが、大庭の建て替えについてはどうなっているのかを教えてください。

【こども教育課】現在、耐震診断を行っていて1月にはその結果が判明する予定です。（略）（中略）

【教育長】大庭の園舎は耐震診断を求められている建物ではありませんが、（中略）園児の安全に影響がある結果となった場合、速やかな対応が必要になるかもしれません。

【委員】大庭の保護者の思いはどうなんですか。

【こども教育課】（前段略）積極的に統合して欲しいという意見は無いであろうと考えています。

【教育長】統合の意見というものは聞いておりませんし、（中略）地域の方も元気をもらっていただくということもありますので、ご理解いただきたいと思います。（中略）

【委員】以前、将来統合してもいいように大きめの施設を建ててはという意見がありましたが、**2園存続ということになれば施設の考え方が変わる部分もある。**（略）

【委員】大庭地区の保護者の方で「別にいっしょで良い」と**言っている方もいます。**「中学校はいっしょなんだから」「車で送迎はそんなに苦にならない」「大勢で育ったほうが良い」ということです。

【委員長】保護者と地域ではちょっと思いの違いがあるのかなということでしょうか。（略）

【こども教育課】先ほど、積極的な統合の意見はないと申し上げましたが、**2人の委員から貴重な意見をいただきました。**（略）

【委員】30年後、町の人口が半減するような情報もある。**統合を見据えるべきではないか。**

【アドバイザー】人口が半分になるということは子どもの数もそれに伴って減少するので、**統合しても施設的には対応は出来ると**思います。

【教育長】大庭については、子どもの減少率が比較的小さいことや病院など福祉施設が隣接する場所であることから、**将来的に規模がどうなるのかは別として園は残していきたい**という思いです。

大庭は議論なき成り行き統合が用意されている？

R01.07.09 整備検討委員会議事録（抜粋）

（略）（孤立を避けるための西側拡張C案について）

【委員】新しい案を受けることになれば遅れる一方になる。（中略）

【委員】味原川に接している家は下を物置にして嵩を上げて洪水対策をしている家が並んでいる。いくら橋を架けるといってもそうした場所に園を建てることは良くないと思う。

【委員】候補地としてC案があること自体に不思議な感じがする。川沿いは建物の劣化も早い。

加藤文太郎記念図書館の立地は不適だったの？

急がれるところですが、しっかりと事業推進が求められます。facebook、メールなどで、意見投稿をお願いします。

河越 の 懸念（４）

本来、浜坂地域の認定こども園整備に関しては、浜坂地域全体を見据えて整備計画が進められるべきだと考えるところです。

しかし、耐震診断・耐震補強設計が完了している大庭認定こども園の整備方針が示されないことから、私としては、浜坂認定こども園への成り行き統合が想定されているとしか考えられません。（それでいいのでしょうか）

【理由1】平成30年12月の総務教育常任委員会での浜坂認定こども園整備検討委員会の経過報告において、**大庭地域の方から統合を望む意見があると**報告されている。

【理由2】整備検討委員会のアドバイザーが「統合しても施設的には対応できる」と発言されている。

【理由3】現在の浜坂認定こども園の規模が1,030㎡、定員120名であるのに対して、0歳児保育設備及び子育て支援センターを併設して約1,900㎡で整備するとの計画が所管常任委員会資料で報告されている。

【理由4】大庭認定こども園を除く町内の認定こども園の定員総数が令和6年の利用児童数とほぼ同数になるよう想定されている。（後掲資料より）

河越 の 懸念（５）

孤立の可能性があることで、園の職員さんに保育維持と危険性回避の狭間の判断が要求されることに対して、軽々に論じられてきたことに対する行政としての責任の在りように疑問を感じます。**いつでも判断を誤ることなく、避難ができる施設整備をすべきだと考えます。**

河越が提案してきた既存施設の活用と増築で整備をすれば約半額で整備が可能です。